

株式会社TACSしべちゃの紹介

1. はじめに

1～3項では石井より平成27年4月3日より搾乳を開始した表記農業生産法人、(株)TACSしべちゃ（以下、TACSと略す）の設立までの経緯を紹介させていただき、引き続き4項では弊社清水より施設、飼養管理、植生改善の現状についてご紹介いたします。

2. 提案から設立までの経緯

TACSは折に触れ、一般誌や専門誌に取り上げていただく機会も多く、運営体制や施設概要はそちらの記事を参考にいただければ幸いです。ここでは弊社の目線でTACS立上げの経緯を簡潔にご紹介いたします。

平成24年6月に標茶町農業協同組合（以下、JAしべちゃと略す）高取組合長より弊社との共同出資による牧場設立の提案をいただき、弊社がこれに賛同した理由は下記の通りです。

- ①生乳生産量の維持や酪農家戸数の減少を抑制するために農協が経営する牧場が増加する予測がなされていた。
- ②親会社である雪印メグミルク(株)と共に、数戸の酪農家に協力をいただき、草地改良による経営収支の改善について調査研究が行われている。
- ③②を一步進め実際に経営体に参画しながら、標茶町という地域で草地型酪農の基本である植生の改善を一から行うなかで、草種・品種特性と現地適応性が乖離することなく、酪農生産に具体的にどう寄与していくのかその過程を5年、10年スパンで観察しながら情報発信（TACSから）ができる。
- ④弊社は酪農法人に出資するのは初めてですが、これにより経営を担える人材養成や酪農固有の経営

的課題等を把握することが、他の酪農法人運営の諸問題の解決策に繋がる可能性がある。

- ⑤営農と同時に就農希望者の研修受け入れも行いたいとの希望があり、研修時の座学や就農時の技術支援を行うことでビギナーの要望が把握できる。

3. 設立準備

平成24年8月に両者により法人立上げの合同会議がキックオフとなり、その後標茶町（池田裕二町長）も出資に賛同いただいたことでTACS設立の概要が固まり、平成25年6月7日付でプレスリリースを行いました。

- 1) 会社登記に向け、まず資本施策としての資本金は税制上の優遇措置のある1億円以下の95百万円と決めました。弊社の出資は、農業生産法人の構成員（出資）要件は会社法のみならず農地法やその施行規則などに準拠させる必要があることからTACSを登記した平成25年11月時点では当社の出資比率は継続的取引関係者として総議決権の1/4以下の議決権割合（25%以下で出資）としました。その後TACSは5カ年の農業経営計画を策定し、弊社の出資比率も含めて認定を受け、認定農業者となったことから、現在は38%の収支（議決権）比率となっております。
- 2) TACS立上げはJAしべちゃ、標茶町、弊社による合同会議が20回以上開催されましたが最も時間を割いたのは、①事業計画、②畜舎・設備レイアウトです。①については親から子への事業承継の法人化と異なり、一から牧場を設立するため、事業計画が絵に描いた餅にならぬよう、JAしべちゃと共に早い段

階から収入（乳代、個体販売）と支出（特に飼料費と人件費）から割り出す運転資金の借入時期・額・返済計画の妥当性に時間を割き、それを北海道全体や標茶町の酪農法人の実績数値を照らし合わせ、さらに収入のベスト・ワースト両シナリオを想定した上で、妥当と思われる計画を策定しました。②については、飼養頭数から畜舎と搾乳舎のレイアウトを策定し、建設候補地が決まってから急ピッチでその土地の地質、地形、気象条件、畜舎他の飼料庫やバンカーサイロの位置等から作業動線等を勘案し、設計会社に図面を依頼しました。その後は図面一枚々の確認修正作業と施設建設の開始以降は建設工程会議が月に2～3回のペースで開催され、降雪の多い冬季間ではありましたが無事施設の完成に漕ぎ付きました。尚、施設建設、機械については農水省及び北海道の補助事業を活用しており、そのヒアリングや申請作業はJAしべちゃと標茶町が大半を担っております。本年3月23日には関係者各位のご尽力によりにしべちゃ農楽校をお借りして落成式典を挙行することができました。

- 3) 次にTACSの運営で2点掲げますと現在TACSの雇用者は10人未満ですが、労働保険・社会保険完備はもちろんのこと、労働基準法により定められた常時10人以上で義務となっている就業規則を設立時に策定しております。これは小規模の企業であっても経営者の労務管理に対する意思を雇用者に示し、また雇用者も義務や権利を示すことでやる気につながり、ともすれば農業は労働基準法の適用除外項目が多くある中、農業雇用者が安心

して働くことができる環境づくりに就業規則は大切なものと思っております。

- 4) TACSでは、取締役へ助言する運営委員会を設けました。運営委員会メンバーは各分野での有識者で構成し、事業計画や大型設備投資などについて助言する組織です。さらに運営委員会の下部組織として技術部会を置き、栽培管理、飼養管理など技術面で助言をいただくこととしました。この後の項を執筆する弊社技術推進室清水も技術部会員として活動しております。
- 5) 最後になりますがTACSの立上げとは別に今回施設面での利点として、TACSの牧場隣接地に閉校予定の小学校があったことです。標茶町は閉校後の校舎と教員住宅の改修し、町として受け入れる新規就農者や短期実習生の座学施設・宿泊施設となる「標茶町農業研修センター（しべちゃ農楽校）」として活用をしていただくことになりました（写真1、2）。研修生は初めて標茶町の地を踏む人も多く、生活基盤の確保という面では大きく貢献しております。

4. 目標とする経営スタイル

技術的には、2つの大きな目標を掲げています。1つは土壌と草地を改良して牧草収量と栄養価を高め、粗飼料主体の飼養管理を実践すること、もう1つは牛のストレスを軽減し、疾病を最小限に抑えることです。これらを踏まえて、技術的な視点からTACSの取り組みを紹介します。



写真1 「標茶町農業研修センター（しべちゃ農楽校）」外観



写真2 農楽校内の研修生居住スペース

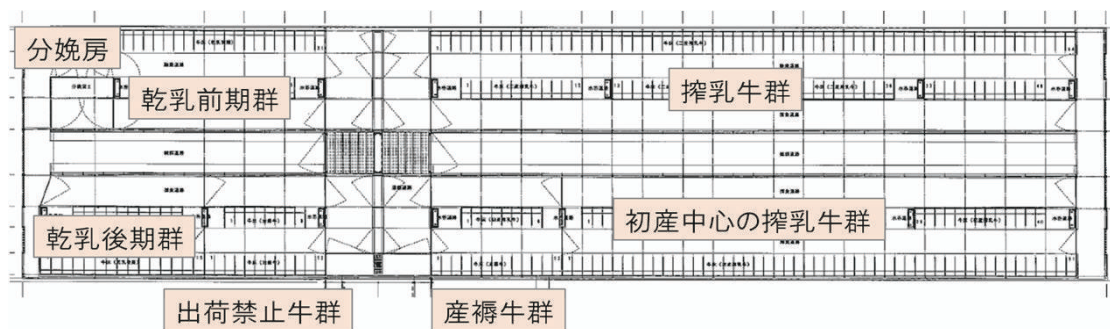


図1 分娩2ヵ月前の育成時期に牛舎へ連れてくる。その後、牛舎内でベンからベンへ移動するが、牛舎外へ出ることはない。これによって、移動のストレスと環境変化のストレスを軽減することができる。

5. 施設に関して

新たに300床の牛舎を建築しました。平面図を図1に示しますが、レイアウトについてこだわった点があります。育成牛は分娩の2か月前に連れてきて、その後、経産牛は同じ牛舎内の移動のみです。これによって移行期の施設間移動のストレスを解消し、分娩前後の成績を高めることを狙っています。分娩房も併設しています。分娩房に長期間牛を滞在させることで、分娩後の成績が落ちるとい調査報告があるのですが、このレイアウトならばまさに分娩の直前（4時間前が良いとも言われています）に牛を連れてくることができます（写真4）。



写真3 TACSのパラー内での搾乳風景



写真4 分娩房はフリーストールに併設されているため、まさに分娩の直前に連れてくることが可能である。

成績を高めるために外せないと考えているもう1つのポイントが牛床の環境です。写真5に牛床の写真を示します。牛が立ち上がる際に容易に頭を振ることができるように、横臥した牛の頭の前に余計な構造物が無いように工夫しています。そして、KRAIBURG社の『WINGFLEX』というクッション性が優れたマットを敷設し、オガ粉をたくさん投入することで、高い横臥率を実現しています。

牛舎内の様子を写真6に示します。牛床環境が優れているため、横臥率が高いことがお分かりいただけると思います。そのため新たに蹄を痛がる牛が発生する頻度は少なく、跛行割合（蹄を痛がって引きずるように歩いている牛の割合）は全体の3%に抑えられています。また、分娩状況や乳量の伸び、体細胞数のコントロールの状況も順調です（図2）。

6. 給与する飼料に関して

若齢牛を除く全ての牛を2種類のTMRで管理しています。1種類目は乾乳前期・育成用TMRです。



写真5 牛床のデザイン。横臥した牛の頭の前に余計な構造物が無いように工夫してある。加えてクッション性の良いマットを使用しているため、寝起きがスムーズで横臥率が高くなっている。

TACSしべちゃ施設概要：
飼養スタイル：フリーストール、パラーシステム（18頭ダブルパラレル：写真3）、バンカーサイロ1基6層（約7,155m³）、草地面積約200ha（内、デントコーン約40ha）



写真6 牛舎内部の様子。空いているように見えるのは、牛が少ないためではなく、牛が落ち着いていて横臥率が高いためである。

乾乳後期牛には、専用の配合飼料をトップドレス給与します。もう1種類は搾乳牛用TMRです。搾乳牛を1種類のTMRで管理しているのですが、搾乳開始から3か月が経過した現在、痩せている牛と太っている牛の割合はいずれも1割未満と少なく、とても良い状況です。

TMRの内容に特別なこだわりはありません。むしろ、特殊な飼料を使わず、『シンプル』にしていることがこだわりといえるのでしょうか。そのため写真7に示すように、飼料庫はとてもしっかりとしています。現地でTMRの一貫性を調査する機会がありますが、均質なTMRを調製することはとても難しいことであると感じています。この方法ならば一貫性を高いレベルで維持することが容易になるため、この点の心配がなくなります。また、従業員の負担を軽減できることも大きなメリットです。

7. 草地管理について

土壌と植生を改善し、粗飼料主体の飼養管理に繋げることが大きな目標の1つです。手始めに現状の



写真7 飼料庫には紙袋が一切ない！タンクから投入する飼料のみの組み合わせでTMRを調製している。これによってTMRの一貫性が高まる。

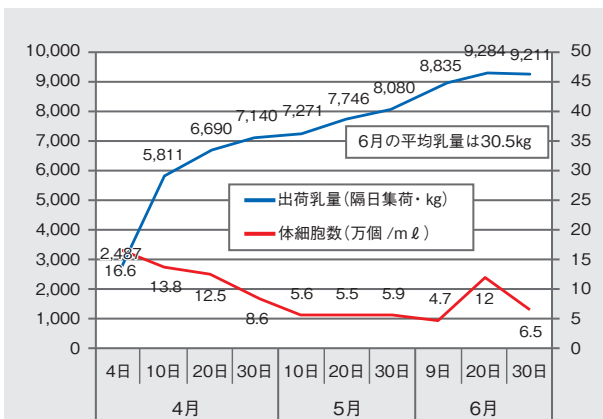


図2 3か月間の生産性の推移、トラブルも少なく順調！

把握と、改善に向けての優先順位をつけるために、植生調査を実施しました。その結果を図3に示します。残念ながら雑草と裸地が多く、目指すところはやや遠いことが明らかとなりました。

現在、更新と追播を組み合わせることで、植生の改善を進めています。草種はチモシー、オーチャードグラス、ペレニアルライグラス、シロクロバー、アルファルファを利用しています。これらの草種を活用することで、嗜好性、栄養価と収量を高めることができますし、チモシー刈倒ではない雑草に強い草地となります。私たちは、ペレニアルライグラスを追播した他の事例でも、追播実施の草地から収穫した草のサイレージを給与した際に、乳量が明確に増える事を確認しています。今後、植生改善効果が表れるのが楽しみです。

最後になりますが、私もTACSの立上げ時からメンバーとして参加させていただいております。法人の運営や施設建設で種々ご助言をいただきましたJA北海道中央会様、北海道農業会議様、釧路農業協同組合連合会様には誌面をお借りして御礼を申し上げます。

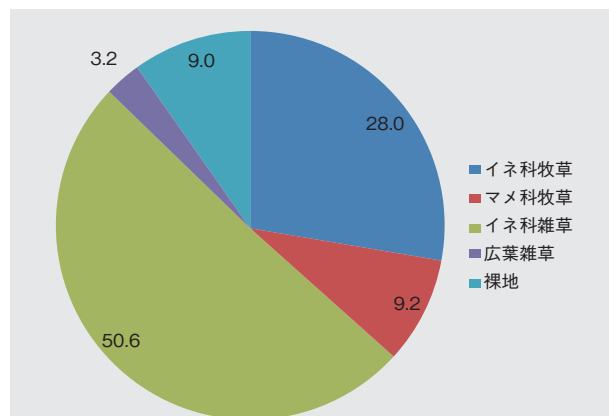


図3 平成25年5月の植生調査の結果。現時点での植生は残念ながら雑草と裸地が多い状況であった。更新と追播を組み合わせ、植生改善に向けている。